SUWA.R.C WEEKLY

＜週報№. 3,001＞　3,114 回例会

2023 年 4 月 14 日（金）

■副会長／小口　泰幸　■幹事／川村 総一郎

◆司会＝五味　武嗣ＳＡＡ

◆ゲストビジター＝本日はいらっしゃいません。

◆出席報告

本日	60.0%	20 名欠席
前回訂正	70.0%	15 名欠席

◆ラッキーナンバー＝№. 19　小口　泰幸君

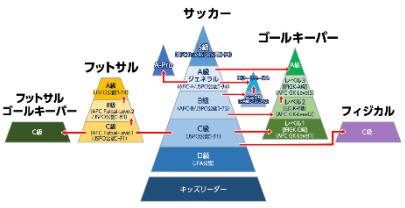
◆ニコニコボックス＝●加藤明博君・川村総一郎＝本日のクラブフォーラムは新会員卓話です。早川会員よろしくお願いします。**●小口武男君**＝ぬのはんさん、いつもおいしい昼食をありがとうございます。**●小林正史君**＝結婚記念日にお花をいただき、ありがとうございました。初めての出来事に、妻も喜んでいました。**●平林明君**＝先週は皆様に歓迎いただきありがとうございました。これから 1 年生としてよろしくお願いします。**●山田文雄君・小平直史君**＝本日、次年度の委員会構成を配布しました。来年も楽しくやりましょう。**●小口泰幸君**＝ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・加藤明博君（小口泰幸副会長代読）＝今日は左利きについてお話をします。私が子供の頃は左利きと言うと、親の躾が悪かったと言われていた時代でしが、今では個性の一つして認知されています。私が知る限りでは、うちのクラブで左利きと言いますと、私と北川会員の 2 名ではないかと思います。私は字を書く事と庖丁以外は全て左で作業を行いますが、左での作業で一番後悔している事は、ゴルフです。そもそもゴルフ場というものは右でプレーするために設計がされていると聞いた事があります。私と北川会員のスコアーが伸びないのはそのせいではないかと本気で思っています。また練習場に行っても打席に限りがあり、さらにクラブ等はほとんどカタログで揃えねばなりません。野球やボクシング、卓球などのスポーツではレフティーは、有利とされていますが、ゴルフだけはレフティーでやる意味がありませんね。私はいま本気で右に直そうかと考えています。次に左利きの有名人をご紹介します。敬称は略させていただきます。女優さんでは、アンジェリーナ・ジョリー、ジュリアロバーツ、倍賞美津子、夏川結衣さん等で、男優さんでは、小栗旬、織田祐二、竹中直人、鹿賀丈二、玉木宏さんなどがおられ、アーティストでは、甲斐よしひろ、大江千里、サンプラザ中野、世良政則、斎藤由紀、木村カエラさん等がおられます。この他にもたくさんの有名な方がおられ驚きです。次に左利きの人の割合ですが、世界では約 10%の人が左利きだと言われており、日本国内で見ますと約 11.50%の方が左利きだとのことで、日本は世界から見ると、左利きの割合が高いほうで、アメリカやイタリアは逆に少ない国で、他には宗教的な理由で、左利きを矯正する国もあるそうです。では左利きの特徴は言いますと、直感で物事の本質を理解する人が多いと言われており、頭の回転が速い、要領が良い、交友関係は狭く深い、せっかちである、ひらめきを信じて行動する、決断が速いと言ったような特徴があると言われていますが、私には、せっかちと決断が速い、この２つしか当てはまりません。北川会員はいくつ当てはまったでしょうか。また良くお酒を飲む人を左利きとか、左党など良く言いますが、これは昔大工さんが右手に金槌を持ち左手にノミを持っていたことから、この様に呼ばれたそうです。最後になりますが、左利きの人は、右利きの人よりも寿命が短いと言われています。その理由は、まず右利きの人より左利きの人方が交通事故を起こす確率が高く、右利きの人の約 5.3 倍だとの事です。又現代の社会では基本、右利きの方の生活に合わせて出来ています。例えばハサミ、庖丁、缶切り、パソコンのマウス、腕時計、駅での改札口などさまざまです。このような環境の中での世界で左利きの人はストレスを受けているため、右利きの人より左利きの人の方が寿命が短いと言われています。もし皆さんが左利きの方を見かけたら是非優しくしてあげてください。

◆幹事報告・川村総一郎君＝①本日の例会はクラブフォーラム「会員卓話」です。早川会員、後ほど卓話よろしくお願いいたします。②来週の例会は諏訪湖 RC 合同お花見例会になります。夜間例会になります。よろしくお願いいたします。③先般も幹事報告させて頂きましたが、11 月より延期になっておりましたバスハイクを 6 月 18 日の日曜日に開催いたします。行先等、親睦委員会の皆様に計画をお願いしております。会員の皆様、ぜひご参加ください。

◆クラブフォーラム●新会員卓話・早川亮君＝こんにちは。三井住友銀行の早川です。よろしくお願いいたします。諏訪ロータリークラブに入会させていただいたのは、昨年の７月です。日頃より、皆様に懇意にしていただき、ありがとうございます。何もお役に立てていないので、出席率だけは貢献したいと思っていましたが、この３月は休みが多くなってしまい反省しているところであります。今週以降、またきちんと出席を重ねていきたいと思っております。銀行に入ってからの略歴を簡単にご説明いたします。22 年間、ほぼ法人様の営業をしてまいりました。キャリアの前半 10 年は、広告・マスコミ関連業界担当しておりました。後半の 10 年が半導体、電子部品業界の担当をしてまいりました。卓話では、このキャリアを活かしてお話したいと考えていたのですが、マスコミ、広告、半導体産業のプロの方が大勢いらっしゃいますので、私がそのお話をするのもおこがましいですので、今日は私のライフワーク、サッカーについてお話をさせていただきたいと思います。

私はサッカー選手としては、才能が有りませんでしたので、早い段階で学生時代からプロの指導者を目指しておりました。色々悩みまして、銀行員と言う職業を選びましたが、学生時代は本気で J リーグの監督をを目指しておりました。J リーグの監督になるためには、ライセンス必要です。真ん中の△の頂点が S 級となりますが、このライセンスがないと監督ができません。S 級は現在 500 人くらいいます。A 級は 2,500 人くらい、B 級は 7,000 人弱、C 級は 3 万人、D 級は 5 万人くらいです。私は A 級まで取得しましたが、途中で J リーグの監督になる目標よりも、銀行で生きていく決断をしたので、これ以上 S 級は目指さないけれども、育成年代に注力する指導者として、その年代のエリ



ートを担当する立場、特にU12 世代の指導に注力してきました。今も月に 1・2 回は東京に戻りまして指導しております。それでは、日本代表がカタールワールドカップでグループリーグをなぜ突破できたのか？今日はこれを勝手に分析をしていきたいと思います。色々ありますが、私はこの 4 つかなと思っています。1 つずつ見ていきたいと思います。1 つ目は強豪に物怖じしないメンタルをもったチームであったということ。今の代表選手たちは、多くがヨーロッパのクラブに所属しています。そのため、例えば初戦のドイツ戦の前に、遠藤航君なんかは「ドイツ代表より、ドイツの強豪クラブのバイエルン・ミュンヘンのほうが強いですよ」と話していました。つまり、メンタル面で負い目を感じたり、相手チームをリスペクトしすぎることがなかったということです。そして２つ目は、スペイン戦の前半 32 分の判断がなかったら負けていたと分析しています。田中碧が急に自分がマークしていないといけない選手を捨てて、ボールを持っていたスペインのディフェンダーまでボールを追いかけにいきました。それまで碧がマークしていたのは、MF のガビという選手でしたが、谷口選手がスライドしてガビをマークして、碧は勝手にプレッシャーをかけに行きました。この自主的な判断を２つ目にあげました。3 つ目は、勝負の神様を呼ぶ「やり切る力」です。日本代表にとっては、ドイツ戦もスペイン戦も、運が味方しました。ただ、森保監督は、「運は誰にでもつかめるものではない。自分がやるべきことをきちっとやっているから、神様がご褒美をくれるものだ」とミーティングではよく言っています。我々指導者たちはこれを「勝負の神さま」と呼んでいます。50%ではなく、100%でボールを追う。そうすると、間に合わなくても、相手は力んで良いボールが出せなくなる。そういう細かいことが勝負を分けるんですね。逆に、それをやらないチームや選手には勝負の神様はご褒美をくれない。ドイツ、スペイン戦の後半は、ボールへの詰め、戻りの追っかけ、間に合わなくても全力で追いかける、これら全部ができていました。三苫の 1 ミリも勝負の神さまがくれたご褒美です。勝負を分けるのは、戦術やシステム、采配と言う人もいますが、本当は、そういう試合の中の小さいプレーをきっちりやりきれるかなんですね。

これで卓話を終わってしまいますと、ただサッカーの話をしただけになってしまいますので、卓話と認めてもらえるようなお話をさせてください。私が今、ここ諏訪で、職業人人生を掛けてやろうとしている企画があります。縁あって、ここ諏訪の地に赴任しましたので、この地に私の大好きなサッカーという文化を根付かせたいと考えています。私のサッカー人生は、小学生の指導者歴が長いので、このカテゴリーにフォーカスして何かできないか。そう考えてきました。行きついたアイデアが、この地で小学生の世界大会ができないか？という企画です。ロータリーの目的にも記載がありますとおり、奉仕の精神で、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進するという項目がります。世界中の子供たちが、この地に集まって、サッカーを通じて国際交流をする。諏訪で出会った子供たちが、いつかの日か、ワールドカップで再開する。そんなことを夢みてプロジェクトを始めました。まず、グラウンド探しから始めました。残念ながら、諏訪市内には良いグラウンドがありませんでした。塩尻や岡谷も探しましたが、適当なグラウンドは無くて、諦めかけてましいたが、お隣の茅野市、蓼科の女神湖の横に良いグラウンドを見つけました。グラウンドのオーナー様も私の考えに共感してもらい優先的に貸してくれることになりました。単純にサッカーでの国際交流ではなく、蓼科の自然の中で、女神湖・白樺湖・蓼科湖の綺麗な水を感じて、地球について子供たちに考えてもらいながら大好きなサッカーを標高 1,500mでやってもらう。こんなことができるのではないかと企画を進めてきました。しかし、いきなり国際大会を開催するのは相応の宣伝が必要、お金が必要、任期中に開催できないと悩んでおりました。そのような中で、元スペイン代表選手、ダビドビジャ選手に辿り会いました。この方は、サッカー好きの方にはたまらない選手でして、スペイン元代表でワールドカップ優勝、そして得点王にもなりました。バルセロナでも活躍し、現役最後の年は日本でもプレーしてくれた選手です。真剣にこのＰＪについて説明した結果、私の考えに共鳴してくれ、彼が世界中で運営しているサッカースクールのエリートプログラムを蓼科でやろうと言ってくれました。まずはこの夏の前に国内の選抜選手だけの合宿をやります。7 月にはビジャ選手が蓼科入りしてくれる約束をしました。この企画がずっと続けば、世界大会ではないですが、世界中の子供たちが、大人になっても、蓼科や諏訪湖に来てくれると確信しています。この企画に、ＡＣ長野パルセイロの今村社長も共感してくれまして、ビジャ・サッカースクールの世界選抜対ＡＣ長野パルセイロ U-12 の企画も実施する予定です。

最後にまとめです。銀行員として、ロータリーに入会させていただき、この卓話の機会を頂戴しておりますので、あえて日本経済とサッカーを強引に結び付けて「まとめ」ていきたいと思います。日本経済は「失われた 30 年」と言われています。社会がなんとなく暗くて、なんとなく夢や希望が見えない側面があります。日本だけを考えると死ぬほど悲観するような世の中ではないですが、この「なんとなく」というのが、厄介なんです。今、日本サッカー界が今やろうとしているのは、このなんとなくを打開するために、モノの豊かさより心の豊かさを大切にする社会づくりに貢献しようと頑張っています。銀行員の私が申し上げるのもおかしいですが、この国の経済は、みんなが数字を追ってきて、行き着いたものが今であり、失われた 30 年です。本当に大事なものは数字じゃ表せないものじゃないかと、みんなが気づき始めていて、人的資本経営とか、ＳＤＧｓとか、様々叫ばれています。数字では表せない価値あるものを大事にしていかないと、これからの日本は国として成り立っていかなくなると皆が気が付き始めています。「失われた 30 年」かもしれませんが、それを元に戻すのではなくて、新しい価値を見出していかなければいけません。そのためには、新しい価値を作り出せる人材が必要です。新しい３０年で活躍できる人材を、自らが判断して、主体性を持って動ける人材、自律した人材をサッカーの世界でも、自分の会社、銀行でも育てていきたいと思っております。以上で、卓話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

◆今後の例会日程

4/21（金）	諏訪湖 RC との合同花見例会
4/28（金）	クラブフォーラム　ロータリー情報
5/5　（金）	法定休日